

# 亀山市総合環境研究センター発足10周年と「亀山学」出版



亀山市総合環境研究センター  
亀山市民大学キラリ学長

朴 恵淑

「亀山市総合環境研究センター」は、亀山市の市民、NPO、企業、大学、行政との産官学民の連携によって亀山市の環境・文化・健康（福祉）において、時代を先取る政策を提言し、次世代を担う人材育成、積極的に情報発信を行う亀山市の戦略的実践型シンクタンクとして、2005年1月に発足しました。本センターは、環境を単なる自然環境に限るのではなく、人間環境や伝統文化環境にまで広げ、次の三つのテーマを中心に活動を行っています。

（1）亀山市が名実共に世界一の環境先進都市となるための時代を先取る環境政策の立案及び環境人材の育成を行う。

（2）関宿に代表される伝統文化の継承者として活躍できる次世代を担う若者や子供と豊富な経験を有する世代との連携によってユネスコ活動について理解し、学校教育や生涯教育に積極的に取り組む教育プログラムの開発を行う。

（3）世界保健機関（WHO）の健康都市に加盟している亀山市の市民が長寿社会を健康に楽しく生きる、幸福度世界一の都市となるための提言を行う。

本センターの理念を実践する場として、2006年6月から「かめやま環境市民大学・大学院」を開設し、2011年6月から環境・文化・健康（福祉）の3本柱を基軸とした「亀山市民大学キラリ」に拡大、運営しています。世界一の環境先進亀山市を目指す持続可能な環境都市、誇れる歴史と文化の都市、元気で安全安心な健康（福祉）都市を創るべく、「亀山市民大学キラリ」は、生涯教育の場、みんなの力が発揮できるプラットフォームとなっています。

「亀山学」は、亀山市の過去を知り、現在を理解し、未来を創る有効なツールとなる地域学であります。「亀山学」は、次の三つの基本理念に基づく、人づくり・地域づくり・未来づくりの理論的根拠及び実践的手段となります。

（1）持続可能な開発のための教育（ESD）実践による人づくり

学校教育及び生涯教育における持続可能な開発のための教育（ESD）による人づくりを行います。ユネスコスクール活動の活性化によって、環境教育、エネルギー教育、防災教育、生物多様性教育、気候変動（地球温暖化防止）教育、国際理解教育、文化遺産教育、その他（平和教育、人権教育など）を積極的に行い、地球規模で考え、地域で行動できる、グローバル人材を育成します。

（2）成熟した市民ガバナンスによる地域づくり  
成熟した市民バナンスによって、豊かな自然を守りながら経済との調和が図られる持続可能な社会、伝統文化が守られ、幸せを感じられる地域づくりを行います。

（3）認識共同体による協働型未来づくり  
産官学民のステークホルダーとの認識共同体による協働型未来づくりを行います。市民・行政・事業者の三位一体の協働システムによって、地域に根ざし、世界へ通用する亀山らしい未来づくりを目指します。

「亀山学」を通じて、身近な地域について考え、行動することで人々の輪が日本全国や世界へ広がり、地球市民としての自覚とノウハウが地域へフィードバックでき、持続可能な亀山創りに貢献できることを期待しています。